

1 B

「往」は行くという意味で、「復」は帰るという意味なので、「往復」は反対の意味を持つ漢字を重ねたことになる。従って、正解は**B**となる。

2 D

「房」は部屋という意味で、「冷」は冷やすという意味なので、「冷房」は動詞の後に目的語をおいたことになる。従って、A～Cのどれにもあてはまらないので、正解は**D**となる。

3 A

「切」は切るという意味で、「断」は断つという意味なので、「切断」は似た意味を持つ漢字を重ねたことになる。従って、正解は**A**となる。

4 C

「汚」は汚いという意味で、「点」は場所という意味なので、「汚点」は前の漢字が後の漢字を修飾していることになる。従って、正解は**C**となる。

5 D

「劇」は劇という意味で、「演」は演じるという意味なので、「演劇」は動詞の後に目的語をおいたことになる。従って、A～Cのどれにもあてはまらないので、正解は**D**となる。

6 D

7 C

8 B

9 A

まず、最後の(エ)に入る語句から考える。エの直後の「我が国で実現しているだろうか」という語句につながるもの考える。選択肢を見てみると、代入してうまくつながるのはAの記述のみなので、ここには**A**が入ることになる。次に、(ウ)に入る語句を考える。B、C、Dはすべて直後に来る語句を修飾する語句であると考えられ、Bの「何度でも挑戦できる」は、Aの「多様な可能性に挑める社会」につながるのが自然である。また、Cの「希望の実現を目指して」は「何度でも挑戦」する目的だと考えられ、Bにつながるのが自然である。従って、残った選択肢は**D→C→B**の順になる。

以上により、アには「**D**」が入り、イには「**C**」が入り、ウには「**B**」が入り、エには「**A**」が入ることになる。

10 B

「正常な経済環境を回復すること」とあるため、空欄には「回復しなければならない異常なこと」が入るとの予測がつく。**B**を入れると、「雇用・設備・債務という3つの過剰」という異常な環境を解消し、「正常な経済環境を回復する」となり、つながりがよい。従って、正解は**B**となる。

11 D

「安定した景気回復の基盤」とあり、空欄にはその「安定した基盤」に関する文章が入ると予想される。残りの選択肢を見ると、「バランスよく回復」したことが「安定した基盤」の確保につながっていると考えられる。従って、正解は**D**となる。

12 E

「消費の増加などに現れるに至った」とあり、空欄には消費増加の原因に関する文章が入ると予想される。選択肢を見ると、「回復の成果」「家計にも波及」などの言葉から、最もつながりのよい文章は**E**であると考えられる。従って、正解は**E**となる。

13 B

技術の発展とともに強まっていく傾向は何かということ本文から探してみると、技術の発展については、「テレビやCD、インターネットなど」がそれにあたると考えられる。そして、Bの前には、「彼／彼女の『芸』が広く世界中で享受されること」とあり、これが設問文の「そうした傾向」にあたると考えられる。従って、正解は**B**となる。その他は入れるのには不自然である。

14 質

空欄の前の文章では、「『やり直し』の環境が…経済状況などに恵まれた一部の人間だけになってしまう」とあり、続けて空欄の文章では「やり直し」の環境が整っていない場合について述べられている。つまり、「やり直し」の環境が整っていない場合には「低下」し、「やり直し」の環境が整っている場合には「向上」するスーパースターの性質を考えればよい。空欄の後の文章では、「このように、再チャレンジの容易な社会は…」とあり、ここでは「やり直し」の環境が整っている場合について述べられていると考えられ、その後「より質の高いスーパースターを」とあるため、正解は「**質**」となる。

15 C

各記述を順に検討する。

ア 「職業技術を学び直すこと」が必要になるのは、スーパースターへの夢が破れたときのことである。筆者は、「可能性に賭ける」と「職業技術を学び直すこと」が同時に必要であると主張しているわけではない。従って、本記述は誤りとなる。

イ 本文では、「『やり直し』の環境が整っていない場合は、スーパースターへの挑戦ができるのは経済状況などに恵まれた一部の人間だけになってしまう」とある。「『やり直し』の環境が整っていない」を「再チャレンジの容易でない」と読み替えれば意味が通る。そして、「経済状況」は本人の「芸」以外の要素といえるので、本記述は正しい。

以上により、正解は**C**の「アは誤りだが、イは正しい」となる。

16 1,200

Bの所持金1,600円の5分の2は、

$1,600 \times 2/5 = 640$ 円 となる。この640円と5:4の関係にある金額x円は、

$$x : 640 = 5 : 4$$

$$4x = 640 \times 5 = 3,200$$

$$x = 800$$
円

となる。これがAの所持金の3分の2なので、Aの所持金は、
 $800 \div 2/3 = 1,200$ 円 となり、正解は「1,200」円となる。

17 60

全体のノートの数をxとすると、Aに配分したノートは **$0.4x$** となる。つまり、B、Cに配分したノートは、

$$x - 0.4x = 0.6x$$

となる。このうちの40%がCに配分されることになるので、Cに配分されたノートは、

$$0.6x \times 0.4 = 0.24x$$

となる。これはAに配分されたノートの

$$0.24x \div 0.4x = 0.6 = 60\%$$

18 3

イの条件より、MとNの学年については、「M3年・N1年」か「M6年・N2年」のいずれかとなる。また、アの条件により、Mが6年になることはできないので、このときのMは3年生であることが確定する。従って、正解は「3」年生となる。

19 89

アの条件により、3人のテストの合計点は、

$$X + Y + Z = 85 \times 3 = 255 \text{点}$$

となる。イの条件より、

$$Z = (X + Y) / 2 + 6$$

$$Z - 6 = (X + Y) / 2$$

$2(Z - 6) = X + Y$ となるので、これを最初の式に代入すると、

$$2(Z - 6) + Z = 255$$

$$3Z - 12 = 255$$

$$3Z = 267$$

$$Z = 89 \text{点}$$

20 100

5人の内野手から4人を選ぶ場合の数は、

$${}_5C_4 = 5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1 / 4 \times 3 \times 2 \times 1 = 5 \text{通り}$$

となる。一方、6人の外野手から3人を選ぶ場合の数は、

$${}_6C_3 = 6 \times 5 \times 4 \times 3 \times 2 \times 1 / 3 \times 2 \times 1 = 20 \text{通り}$$

重要 積の法則を用いる

となる。従って、求める場合の数は $5 \times 20 = 100$ 通り となり、正解は「100」通りとなる。

21 5

最初の10分間は太郎君1人が歩くことになるが、その距離は「**速さ×時間=距離**」より、

$$80 \times 10 = 800 \text{m}$$

となる。この800mをお母さんが追いかける時の所要時間は、両者の速さの差が

$$240 - 80 = 160 \text{m/分}$$

だから、「**距離÷速さ=時間**」より、

$$800 \div 160 = 5 \text{分}$$

22 1/20

Pがあたる確率は $5/20 = 1/4$ であり、Qがあたる確率は $3/15 = 1/5$ となる。従って、両方があたる確率は、

$$1/4 \times 1/5 = 1/20$$

23 4

遊園地の入園料をx円、入園者数をy人とすると、昨年の入園料総額は **$x \ y$ 円**となる。

今年の入園料は **$1.3x$** 、入園者数は **$0.8y$** となるので、入園料総額は、

$$1.3x \times 0.8y = 1.04 \ x \ y \text{円}$$

となり、これは昨年の入園料総額 $x \ y$ 円に比べて、**4%**の増加になる。従って、正解は「4」%となる。

24 18

年齢を式にすると、両者の和が30歳だから、

$$\text{甲} + \text{乙} = 30$$

となり、6年前は年齢が2倍だったことから、

$$\text{甲} - 6 = 2 \times (\text{乙} - 6)$$

$$\text{甲} = 2\text{乙} - 6$$

となる。この両者を連立方程式で解くと、**甲 = 18歳**、**乙 = 12歳**となり、正解は「18」歳となる。

25 1/14

10個の中から4個取り出す場合の数は、

$${}_{10}C_4 = 10 \times 9 \times 8 \times 7 / 4 \times 3 \times 2 \times 1 = 210 \text{通り}$$

となる。また、白玉6個の中から4個取り出す場合の数は、

$${}_6C_4 = 6 \times 5 \times 4 \times 3 / 4 \times 3 \times 2 \times 1 = 15 \text{通り}$$

となる。従って、求める確率は、 $15 \div 210 = 1/14$ となり、正解は「1」/「14」となる。

26 24

問題文の数値から、パソコンとFAXの所有の有無について、右のような表を作ることにする。

そうすると、パソコンを所有していない人は $150 - 96 = 54$ 人、FAXを所有して

いない人は $150 - 41 = 109$ 人となる。パソコンのみを持っている人が $109 - 37 = 72$ 人となるので、両方所有している人は、 $96 - 72 = 24$ 人となり、正解は「24」人となる。

	FAX○	FAX×	合計
パソコン○			96
パソコン×		37	
合計	41		150